

第3回新潟地区国立病院 薬剤部科勉強会を開催して

西新潟中央病院 薬剤部 鈴木 隆史

はじめに

平成28年11月5日（土）に第3回新潟地区国立病院薬剤部科勉強会を開催しましたのでご報告致します。第1回は新潟病院、第2回はさいがた医療センター主導で行われ、3施設持ち回りの一区切りとなる今回は、西新潟中央病院の高橋省三薬剤部長にご尽力いただき下越地区での開催となりました。

参加者は3施設の薬剤師、過去の在籍者、実務実習中の学生のみならず、谷地豊薬事専門職をはじめとする県外の先生方も多数ご参加いただき、過去最多の34名となりました。

勉強会の様子

今回は第1回勉強会でもご協力いただいたテルモ株式会社に再度依頼し、「抗がん剤の曝露リスク」をテーマに講義と実技の2部構成で研修を行いました（資料1）。

当日は天候にも恵まれ定刻通りに開催することができ、新潟病院の樋口順一薬剤部長の開会の辞、高橋部長からの幹事施設長挨拶を経て、第1部となる「抗がん剤曝露リスクとガイドラインについて」の講義が行われました。内容は抗がん剤の曝露の経路・原因・人体への影響、調製時や投与時の注意点、社会の動き等多岐にわたり、抗がん剤を取り巻く環境についての知識を得ることができました。

休憩後の第2部では、「蛍光剤を用いた曝露リ

第3回新潟地区国立病院薬剤部科勉強会	
日時：平成28年11月5日（土）13:00～16:00	
会場：国立病院機構 西新潟中央病院 附属棟 大会議室	
会 次 第	
	司 会 鈴木隆史先生（西新潟中央）
開 会 の 辞 13:00～13:05	樋 口 順 一 先生（新潟）
幹事施設長挨拶 13:05～13:15	高 橋 省 三 先生（西新潟中央）
研 修 課 題 13:15～13:30	テルモ株式会社 新潟支店 学術戦略 松田勝博先生
1. 講 義	「抗がん剤曝露リスクとガイドラインについて」
	―― 休 息 ――（15分）
2. 実 技	「蛍光剤を用いた曝露リスクの体験」
	・従来の方法による調剤・投与の体験
	・ケミセーフを用いた調剤・投与の体験
講 評 15:30～15:40	山 口 正 和 先生（がん東）
全 体 会 議 15:40～15:50	実行委員 新保一先生（さいがた） 花垣或太先生（新潟）
業 務 連 絡 15:50～16:00	独立行政法人 国立病院機構 関東信越グループ 医薬担当 薬事専門職 谷地豊先生
閉 会 の 辞 16:00～16:10	狩野哲也先生（さいがた）

資料1

スクの体験」と題した実技が行われました。参加者は3人1組のグループに分かれ、手袋・ガウン・キャップ・マスクと実際の抗がん剤調製さながらの防護服の着用の下、蛍光剤を抗がん剤に見立てて調剤・投与の体験を行いました。シリンジ等を扱うため一定の緊張感を持ちながらも過去の勉強会で顔なじみの先生方も多く、和やかな雰囲気

気で進められました。

先ず行ったのは、バイアル内の蛍光剤の粉末を溶解して生食バッグへ混合する調製を想定した操作です。抗がん剤は無色のものが多く、実際に目視での被曝の有無を確認するのは非常に困難ですが、今回の実技では操作後にブラックライトを当てることで被曝の状況が確認できました。実験的にバイアル内を陽圧にして針を抜いた後の状態を観察すると、バイアルゴム栓部・手袋・作業用シートと広範囲に蛍光剤が飛散しているのが確認できました（写真1）。

一通り調製を体験した後は、抗がん剤を混合したバッグに点滴ラインを接続する投与を想定した操作を行いました。普段の業務ではライン接続に関わる機会は少なく、どの程度被曝のリスクがあるのかは未知数でしたが、講師の方々の指導の下、接続を終えて確認してみると想像以上にリスクが高いことが分かりました（写真2、3）。

最後に、テルモ株式会社の抗がん剤投与システム「ケモセーフ[®]」を用いて同様の調製、投与の体験を行いました。システム使用の有無による被曝リスクの減少を実際に観察することができ、簡便な操作で安全性を保てる医療器具の進歩に参加者一同感嘆していました。

研修課題終了後、前さいがた医療センター薬剤科長（現がん研究センター東病院薬剤部長）の山口正和先生より講評をいただき、その後の全体会議では、次回開催についての検討が行われ、新潟病院主導で行われること、日程や内容について



写真2



写真3



写真1



写真4

はアンケートの結果等を参考に今年度中を目途に実行委員が計画・提案すること等が決まりました。

薬事専門職の谷地豊先生からは次回以降も参加したいとお言葉をいただき、最後にさいがた医療センター薬剤科長の狩野哲也先生の閉会の辞をいただいて盛会のうちに終了となりました（写真4）。

尚、勉強会終了後に行われた懇親会へは勉強会参加者34名全員が参加され、様々な意見や情報交換が行われ、交流を深め合った非常に盛大な会となりました

考察

今回県外の先生方10名にご参加いただいたことで、来年度以降の実施に向けての課題も見えてきました。具体的には、研修課題を県外の方々にも興味を持ってもらえるような内容にすること、交通手段・宿泊場所の確保、早い時期からの関信地区へ向けての広報活動を行う等が挙げられます。

研修内容につきましては、第1回から講義と実技を組み合わせた内容を行い、過去のアンケートでも高評価をいただいているため効果的であると考えます。今回は少人数のグループに分けて実技を行い、その中で経験豊富な先生が若手の先生に対しアドバイスしている場面や若手の先生が質問

を行う場面が多数見られ、これまでの勉強会での関係性の積み重ねや能動的な姿勢での取り組みを実感できました。今回のアンケートでは研修内容に関するディスカッションを行った方が良いとの意見もあり、このような貴重な意見は今後取り入れていきたいと考えております。

チーム医療への参加が進められている昨今、他職種の業務・視点を理解することも重要であり、今回の点滴ライン接続時における、被曝リスクに関する実技は良いきっかけとなったのではないかと思います。勉強会を終え、実際に看護師が抗がん剤をどのように扱っているのかに注目してみると、学んだことと同じように被曝を防ぐための手技が行われており、今まで他部門に目を向けず自身の業務だけで満足していたことに対して反省するとともに、このような機会を無駄にせず広い視野を持つことの重要性を再認識しました。

参加者の方からは宿泊場所についての質問も多数寄せられました。今回の開催場所である西新潟中央病院は交通の便が良く、東京駅から病院の最寄り駅までは上越新幹線利用で2時間30分程度でしたが、今後別の会場での勉強会後の懇親会も含めた場合、県外の先生方の宿泊場所や帰りの交通手段を考慮した計画が必要であると感じました。

今回の勉強会について実際の準備を始めたのは9月下旬であり、関信地区へは開催まで一月余り

でのご連絡となってしまったため、参加を希望される県外の先生方の中で都合がつかなかった方もいらしたかと思います。このような反省点を踏まえ、来年度の勉強会ではより多くの先生方が参加できるように計画を立案していきたいと考えております。

感想

今回で新潟地区勉強会も第3回を数えることとなり、昨年度までの私は一参加者でしたが、今年度は実行委員を引き継ぎ初めて運営する側としての参加となりました。開催にあたっては昨年度末の時点で会場・開催日・研修内容等大まかな部分は決められておりましたが、テルモ株式会社の方々や他施設の実行委員との打ち合わせ、会次第の作成、当日の進行等慣れない作業が多く、会運営の

経験豊富な高橋部長をはじめ、多くの先生方の協力によって進めることができました。また、関信地区への広報に関しては、山口先生をはじめとする過去に3施設に在籍されていた先生方にも非常に多くのご支援をいただき、勉強会の目的の一つである「協力体制の構築」を実行委員の立場からも実感することができました。

今後も新潟地区の連携を密にするのはもちろんのこと、内容を吟味してより多くの県外の先生方の参加を募るとともに、他の地域の模範となるような勉強会を計画・継続していきたいと思っております。

最後となりますが、研修会の講師を務めていただいたテルモ株式会社の方々、および実行委員の新保一先生、花垣諒太先生、開催に際しご協力いただいた全ての先生方に、この場をお借りして深く感謝とお礼を申し上げます。

